

まるおかしょうあと

4. 丸岡城跡

所在地：坂井市丸岡町霞1丁目59番地

調査原因：内容確認

調査期間：平成29年10月23日～12月4日

調査主体：坂井市教育委員会

調査面積：約35㎡

時代：近世～現代



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 丸岡城跡の本丸にあたる城山部の調査(5カ年計画の5年目)で、丸岡城天守の北東広場、通称天守前広場と天守台北東隅で内容確認調査を実施しました。調査は天守以外の建物の規模や平面形を確認することを目的として行いました。

遺構 天守前広場の調査地では、昨年度の調査に引き続いて、柱穴を多数確認することができました。調査地の南端では、昨年確認した石積遺構が続いていることがわかりました。石積遺構は向かいあった石積から成る溝状遺構で、石積の北側は裏込め石があるのに対し、南側には裏込め石は無く土が堆積しています。深い場所で黒色土層と燈明皿の破片が出土しています。

天守台北東隅の調査地は、石積遺構が天守の排水施設ではないかと想定して設けたものです。調査を行いました。石積遺構は天守台付近まではつながっていませんでした。天守台の根元では現地表面より60cm下で岩盤層を確認しました。岩盤層に四角い柱穴があり、建築時もしくは修理時の足場跡と思われます。岩盤層の直上まで近現代の瓦礫を含む土が堆積しており、福井地震の修理時に埋め戻されたことがわかります。また、天守台の基底石は岩盤を掘り下げて据えられています。石の外側に空間がほとんど無いことから、基底石を石垣の内側から岩盤の壁に押し付けるように据えられていると思われます。

遺物 これまでの調査と同様、大量の石瓦が出土しています。特に天守台北東隅からは福井地震により破損したと思われる石瓦が大量に出土しました。天守前広場の調査地からは、北東の不明遺構から越前焼の甕、土師器片等が出土しています。

まとめ 天守前広場では柱穴が多数確認されており、建物が複数回建替えられた可能性も考えられます。また、調査地南側の石積遺構は天守前広場にあった建物に付随する施設であったと考えられます。

天守台北東隅の調査から、天守台石垣の下部構造がわかってきました。今後、他の場所も調査をして確認する必要があります。(堤 徹也)

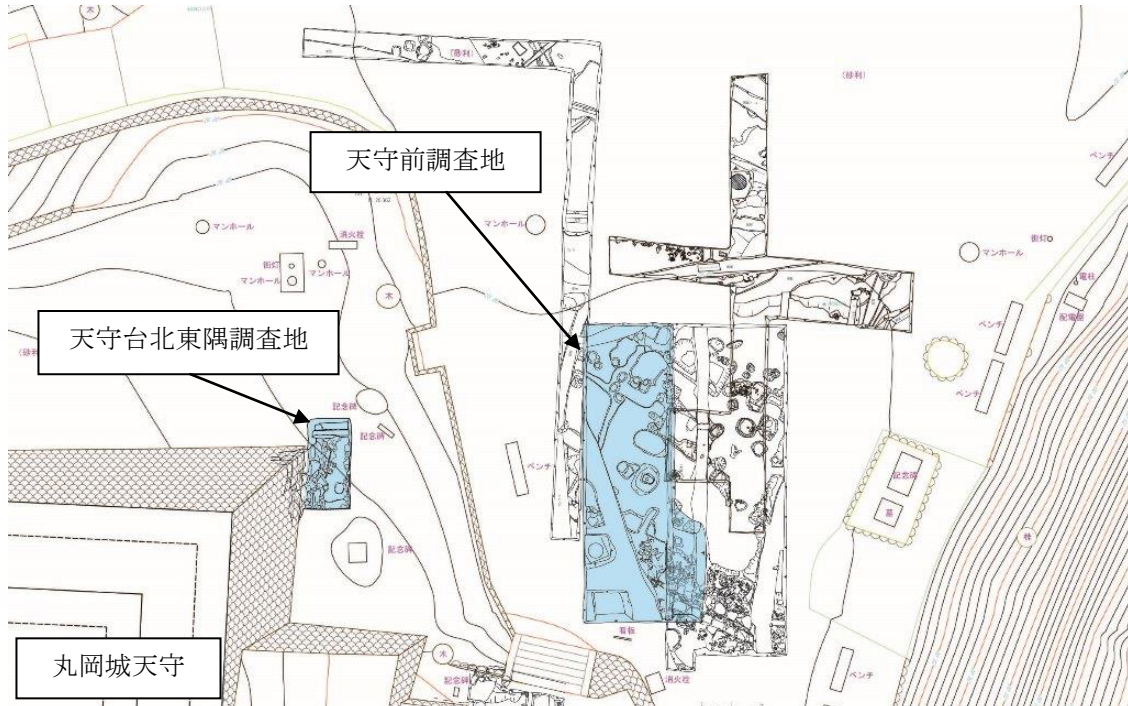


図1 調査トレンチ配置図（着色した範囲が平成29年度調査箇所）



図2 天守台北東隅調査地(東から)



図3 天守前調査地全景(右奥为天守)



図4 土師器皿片



図5 石瓦(丸瓦)



図6 石瓦(平瓦)